

第5回 湖西市職住近接・未来ビジョンアドバイザーボード 会議議事録

開催日時：令和4年11月1日（火）10時00分～11時30分

会場：湖西市役所 市長公室（オンライン併用）

テーマ：「魅力」どう知るどう伝える

発言者	発言内容
野村委員	<ul style="list-style-type: none">・湖西に初めて配属された際に感じたのは浜名湖、遠州灘、湖西連峰があり、景色がとてもいい。・メーカーが多く集積していることや非常に勤務時間が短いことも魅力を感じる。・道の駅や佐吉記念館があり、新居の関所は日本で唯一のもので、アメニティプラザをはじめ様々な施設がある。・地域活動や合唱など文化的な活動が非常に活発。・人口規模からすると祭りなどの神事も含めて、資料にある通り様々なことに本当に力をいれていらっしゃる。・湖西市と同じ人口くらいの町に住んでいるが、新興住宅地ということもあり、昔ながらのお祭りはなく、お祭りがあることを良く思い、とても新鮮だった。・湖西市の人口規模で産業や文化・観光・伝統、そして便利さ、それら全てに魅力がある自治体はすごく珍しいと感じた。・その魅力に湖西市内に住む方が気づいていないことには驚いた。・湖西市はすべてにおいて平均値以上のものがあることを市役所の方や市民の方に気付いていただきたい。・取材をする立場だからこそ湖西の魅力に気づいたところもあり、一個人としては気がつかなかったかもしれない。・多くの市民の方が私のように、おそらく常にアンテナを張り巡らせているわけではない。・毎日楽し暮らしている方は市政が何をしているのか知らなくても困らない方がいる一方で、日々の生活で精一杯で地域の活動に参加する物理的・心理的に知る余裕がない方もいることが重要で、市政にとっても新聞社にとっても大切。・市の魅力や施策を発信するにあたり、この会議があると思うが、届けるターゲットが1つではない。・少数・弱い立場の人が暮らしやすい顔を持つ必要があると思っている。そういった人たちの声がやっぱりなかなか聞こえないため、こちらから知ろうとしないといけない。当事者に学ぶ姿勢、届かない方々に届ける努力は必要。・市役所の方も様々な手法で施策などを届けようとしていると思うが、ある程度届ける手法に乖離があるという認識が必要。どうしても届けることができない方がいることを意識することが重要。本当に届けたい方、本当に知らせたい方、本当に聞きたい声を聞けていないのではないかという自覚が必要。

- ・施策などが届かないターゲット層が湖西を暮らしやすいと思っていただいた時に湖西の魅力が完成する。
- ・行政と市役所がやるべきことは似ており、自分達に対する自分たちの課題であり、目標と感じている。
- ・自身の経験として 10 年前に書いた小さな本当にお知らせの記事を 10 年ずっと持っていてやっと電話できた方がおり、そういうときにこういう小さい記事でも手を抜かずにやってきてよかったなと心から思った。
- ・大きなイベントや派手なところに向けた施策はすぐに成果になる一方で失敗もある。先程申しあげたお知らせの記事のようなものは逆に言うと成果として見えにくく、成果として見えるのに長年かかるかもしれないが、届いたときの喜びは嬉しい。

袴田委員

- ・会社を経営している関係上、市外から来られる方が多くいらっしゃって、例えばどこかの会社を紹介していただけないか依頼をいただくと意外と紹介者が浮かぶ。紹介した方からはどうして同業者なのに仲がいいのかとよく言われるが湖西の特徴だと思っている。
- ・浜松などに行ったとしても同業者同士で仲良く色々な行事を行う。金属組合で仲間同士になり、いろいろ情報交換する中で、かなり入り込んだような情報交換するので、そういったところで湖西市の地域柄が出ていると思う。
- ・湖西は企業同士で腹を割って話せる環境が作りやすいのではないかなと思う。

大倉委員

- ・子育てに関して言うならば、のびのびした環境があり、大規模校小規模校の多少の差はあるが、子供たちが一人一人尊重されて暮らしている意味では本当に感謝をしている。
- ・公式 L I N E については便利だと感じている。登録しておけば、一人一人に子育て向け・事業者向けなど情報が届く。金曜日に L I N E が届くと 1 週間終わった感じがする。L I N E でアンケートがあると、わざわざ電話しなくてもそのフォームに入力することができる。
- ・職場のある名古屋市に通勤のため新所原駅をよく利用するが、たくさんの方が駅から出てくる。駅にあれだけの人がいるので例えばカフェができたり、密にならずに立ち止まって小話ができるといいのではないかな。一生懸命湖西市の魅力を映像で発信しているが、何人の方が見ているのかなと思う。
- ・約 1 万人の方が利用していることは非常に大きい。日中に 1 万人通ることはスターバックスコーヒーが出店する最低要件を満たしており、 駅の可能性を非常に感じる。
- ・若い方も多いので、もう少し駅の情報ステーションのようなことができるといいのではないかな。
- ・子育てをする母親も父親も知る余裕がない。子供会の役員をやりたいくないから子供会に入らないことが起きており、実際自身が住んでいる地域でも子供会崩壊の危機を迎えようとしている。
- ・押しつけ合わないで暮らせるような仕組みがあることが望ましい。地域の方との関係がやや希薄になっているとすると、やりたい人がやれる、もしくはやれない人は違うことで貢献できれば全ての方が暮らしやすさを実感するのではないかなと思う。

菊池委員

- ・市が輝くとか地域が輝くということは、そこに住んでいる方、あるいはそこにある企業が輝くということがあって、その地域が輝いていく。

- ・決して行政が主役に出て、行政がこんなことやあんなことをやっているとPRして、市が輝くわけではなく、他地区の事例を見ても輝いている地域は、その地域の人や企業が輝いているところが多いと思う。
- ・これから行政としては市内地域の輝いている方もしくは頑張っている方の積極的な発信や啓発を行い、これからの時代において、これまで以上に地域作りは、その地域の市民の方や企業の方たちが、主役主人公となって自分たちの地域を守っていく、作っていく自治が大事になり、それを行政がいかに支えられるかが重要。
- ・地域の様々な主体を行政が現場をとにかくよく把握し、そしてそういった情報を理解したうえで、それを積極的に発信し、あるいは何かあったときに主体同士を連携させるようなコーディネート機能が、これからとても重要になるのでマスコミなどを活用した広報も重要になる。

土井委員

- ・ベッドタウン暮らしが長い立場からすると、市民の方はある意味、行政の恩恵をほぼ空気のように感じている。行政の恩恵がないと生きていけないが、行政の恩恵に対して表向きに、体で喜びを表すみたいなようなことは普通あまりない。
- ・行政サービスをして当たり前と多くの市民の方が思っているわけではないが、ないと生きていけない行政サービスがたくさんあるので、絶やすことなく継続的にやっていく普段の努力は必要だと思う。
- ・魅力をどう伝えるかはベッドタウンとしてはやはり一番悩ましいというか難しい。観光名所がないので新たに作るわけにもいかず、あまり無理はしないものの今まで以上に何か努力をしていくということはあるのではないかなと思う。
- ・トヨタ自動車の豊田社長の講演会を全国ニュースで拝見したが、検索することなく全国ニュースで取り上げられたことに大変関心を持った。毎年は難しいが、湖西に縁のある方をいろいろなイベントにお呼びして、それがいろいろな形で注目を引くのも湖西の魅力を伝える一つの方法だと思う。
- ・魅力を伝えるうえでSNSの活用は重要。湖西市はあらゆるSNSを活用しているが、多少一方通行感がある。人の事は言えないところもあるが自身でSNSをやっている、双方向のやり取りでコメントのやり取りをどこまで続けるかという懸念はあるが、本日のテーマからするとSNSは双方向のやり取りをすることで関わりが深まる性質があるので、来たコメントに対して市の職員の方が気軽に答えて双方向でやり取りしていただくと割と関心を持ってくれた人が更にもっと関心を持ってくれるのではないかな。
- ・他市で介護サービスを魅力の1つにしているところもある。積極的に展開しておられる地域包括ケアシステムの中で他市とは違う特色のあるものを作り、健康作りに勤しんでいることを前面に出して、他の市町村の方々が見学に来られるぐらい非常に積極的にそういう取り組みをしているところもある。日頃は自身や家族含めて介護サービスを利用する立場ではなくても、いざという時に介護のサポートが受けられるということで、暮らしやすさをより実感してもらえ、魅力に感じてもらえるというようなところもあるのではないかなと思う。

岩間委員

- ・どのように情報収集するかは、研究所の研究員が研究テーマを探す点は非常に似ている部分がある。私達も地域の課題が何か、どういうテーマを取り上げれば地域の皆さんのためになるか、テーマ決めの部分が非常に重要で、そこで良いテーマをつかめ

たら、あとは深掘りして調査研究して地域に提供する。

- ・日々この地域にはどういう良いものがあるのか、珍しいのか、面白いのか、そういう日々の生活の中で視点を変える意識を持つだけでも、出てくるアイデアやインスピレーションが違ってくる。どれだけ意識づけできるかが重要。
- ・マスコミの力はプレゼンス向上に繋げてくれる力があり、話があった通り全国ニュースで皆さんが見ていただければ、湖西市のプレゼンスが全国レベルであり、湖西市に住んでい
る方にとってテレビや新聞で湖西市が取り上げられることによって地域をもっとよくし
よう、素晴らしいことをどんどんPRしていこうというモチベーションがあがり、好循環につな
がるので、そういった作用を活用していけるといいのではないかと。
- ・SNSの双方向問題については、組織として活用を始めたばかりで組織が会員制に
なっているが、将来的にはカーボンニュートラルやSDGsの関係もあり、紙の媒体をな
くしてデジタル会員として双方向でやり取りができるようにyoutubeやTwitterをやっ
ているが、今のところ反応はない。
- ・苦情も含めて反響があるということは、それだけ皆さんに注目されていらっしゃると思
うので、大きいニュースにおいて双方向でやり取りできれば市長が仰った通り市民
と行政との繋がりも深くなっていくと思う。
- ・会員と研究員の双方向のやり取りができるようになるのは本当にこれからで、脱炭素を
見据え、おそらく若い方は紙媒体の調査結果が送られてきても読まれないので、ホーム
ページの会員専用サイトで調査レポートを見ていただくデジタル会員の取り組みをやっ
ていきたいと考えており、中長期的な目標を作って取り組むことも大事だと思った。

井上委員

- ・今まで6つの市町に住んで、どこが1番魅力的か考えてみたが、どこの市町にも魅力が
あり、答えはでなかった。住んでいる方だけではなく、外部から人を呼び込もうとすると他
と違う魅力をかなり差別化しないといけないと伝わらないのではないかと。
- ・大学も同様で国立大学は法人化して、それまで国に頼ってきたが、自分たちで何かや
らないと生き残れないようになってきている。働いてる方、教職員も含めて、このままでは
生き残れないと思っている方や今まで通りやでよいと思う方の両方の方がおり、今まで
通りやっていたのではおそらく生き残れない。何かしら特色を出して学生なり呼び込む、
あるいは企業の方との共同研究を呼び込むような仕組みを作っていくないと生き残れ
ない社会になってくるのではないかと。
- ・行政についても最低限のことだけをやっていたのでは埋没してしまう。何かをやりたいと考
えている方がやりたいことをできるような環境作りや、資料にあるハーフタイムの記事のよ
うなことが取り組み、かつそれを応援するような人が市役所の中において、それを阻害する人
を撥ね退けることができる体制があれば、嬉しいと思った。
- ・先程トイレの話が出たが、大学が工学系の大学なので女性の学生が少なく、女性の
学生を増やすにはどうしたらいいか考えるにあたり、大学出身者で高校の先生になった女
性の方に聞いたところまずトイレだと言われた。市役所の男性トイレは昔ながらの雰囲気
がするので、市民の方が利用することを考えるのであれば、トイレを変えるのも1つではな
いか。
- ・土井先生のお話聞いて、湖西市がどんなところか外部から言えるかなということに気にし
ており、市としては難しいかもしれないと言われたが、例えば高齢者の人が退職して、どこ

に住むかという時に、湖西市に住むことを選択してもらえるような市にすることでビジネスは成り立つのではないかと。そういう方が来れば、次に介護や福祉の面で付随して看護学部や看護の専門学校を呼ぶことで若い方に来ていただき、地域として特色が出せるのではないかと。おそらく多くの市町が取り組みをしていると思うが、その中でも湖西市がナンバーワンとなるべく特化するような何かしらどこか尖ったところがあってもよいのではないかと。

野村委員

- ・自主防災会があり、非常に活発的に行動されている事はとてもいい事だと思う。防災に限らず市が全部やる必要はなく、「ここまでやる」「これくらいの予算がある」という情報をしっかり開示して、市民の方に助けを求めてもいいのではないかと。
- ・役に立った喜びを感じる事が重要で、例えば花いっぱい運動は非常にいいと思った。
- ・ある地域では、森林の手入れを行うと手入れした木材を使って炭を作り、バーベキューをして、後日炭を受け取る取組をしており、参加が多くある。
- ・人は頼られて役に立てると嬉しいものなので、菊池先生が仰ったようにコーディネートが非常に重要。ただ市役所の方が全部をやる必要はないと思っている。
- ・課題に気づくのは大変。課題に気づくためには、市民を好きになれて、地域に対しておもしろがれるくらい興味を持つことが大切ではないかと。
- ・生き残るために普通の事ではいけないという話において、外部の様々な力を入れていくことは非常に大事だと思うが、もともといる市民の方の役に立つ、または面白さに繋がらなかつたらおそろくうまくいかない。

土居委員

- ・湖西市の産業を構造として、B to Bの製造業が多い特徴がある。B to Bの企業はどうしても一般消費者の知名度が低い。どうしたら多くの方に知っていただけるのか考えることも湖西の知名度を上げる1つではないかと。
- ・例えばシャープの亀山モデルのように亀山で作ったテレビに地名をつけて売ったという事があったが、湖西のバッテリーパックで作ったバッテリーに企業さん協力のもとで、湖西モデルと名付けて世界に売っていくことで、実は湖西で作っていることをPRできる仕掛けができるのではないかと。

袴田委員

- ・市長が湖西市は中小企業と同じという話をされた。私の会社も中小企業なので、社内を見た時に若手の社員が活発的な発言をして、やりたい取り組みをすると企業全体が盛り上がってくるところがある。
- ・地域においても若手のチームの多くの方がたくさん出てきて、どんどん様々な意見を出して、まずやってみようかとやっていけるようになってくると自然に市全体が盛り上がってくるのではないかと。